

特定非営利活動法人
環境り・ふれんず



市民から市民へ伝え学び合う ごみ減量・リサイクルの拠点活動

—札幌市リサイクルプラザ宮の沢と

ECO カフェマイカップ—

NPO 法人環境り・ふれんず 代表理事

いしづか さちえ
石塚 祐江

NPO法人環境り・ふれんずは、2002（平成14）年に札幌市のごみ減量の普及啓発施設「札幌市リサイクルプラザ宮の沢のあり方検討会議」に呼びかけられた市民活動の5団体と、既にリサイクルプラザで活動していた市民ボランティアが約1年の検討期間を経て、ごみ減量や資源・エネルギーの循環と浪費の抑制を図り「循環型社会」を創ることを目的に、2003（平成15）年2月に設立しました。

その後、自立したNPOを目指し、リサイクルプラザ宮の沢の受託事業を柱に、自主事業としてECOカフェマイカップの運営を行い、生ごみやファイバー（繊維製品）の資源化・容器包装の簡素化など、循環型社会に向けた活動を発信しています。

■ 札幌市リサイクルプラザ宮の沢

運営・立地

2003（平成15）年4月、札幌市の施設を初めて市民団体が受託するといった、当時としてはとても画期的な事でした。その後、2006（平成18）年から指定管理者として運営し、10年目を迎えようとしています。

また、このような施設は焼却施設等と併設され、交通の不便な場所にあることが多いのですが、札幌市は市民が利用しやすいよう公共交通（地下鉄・バスセン

ター）と直結した複合施設に設置したことにより、他の施設を利用する市民が、当施設に来館する機会にもなり、市民がごみ減量・リサイクルに触れやすい環境となっています。

主な事業

リサイクル家具・自転車の抽選販売（展示毎月1日～15日、抽選日：16日、引取期間17日～23日）や市民交流広場（毎月24日～月末前日）ではエコ教室、エクスチェンジ（衣類の交換）等を行い、移動食器洗浄車（アラエール号）の貸出し、出前教室・リフォーム教室、ふれあい相談、おもちゃ病院、資源回収、リユース事業、ごみ減量情報展示などを、職員5名と市民ボランティア33名で行っています。

詳しい事業内容はHPでご覧下さい。

<http://www.sapporo530.or.jp/>

市民から市民へ伝え、学び合う

リサイクルプラザの事業を行うにあたり、広報紙等で募集した市民ボランティアスタッフは欠かせない存在で、教室の企画から情報紙の編集、教室の講師や情報展示などの案内を行っています。また、おもちゃの修理「おもちゃ病院」は、ボランティアの有志（ドクター）が取り組み、定着しています。

ごみ減量や分別・リサイクルは、つい「指導」的立場なりがちですが、市民の

視線で市民へ伝え、一緒に学びあえる市民参画型で行っているのも特徴です。

東日本大震災支援事業

当施設の人気事業の一つ「リユースコーナー」は、まだ使える品を市民から提供いただき、必要な人へリユースする不要品をごみにしないコーナーです。ただし、無料でリユースすると、物への責任がなくなり直ぐにごみになるので、募金箱を設置し、使う人の気持ちを寄付いただいています。品物は、台所用品から本・人形・置物・鞆・贈答品など、大量に持ち込まれますが、ほとんどが引き取られているので、かなりのごみ減量になっているのではないかと自負しています。

この寄付される募金は、東日本大震災の支援金として活用、義捐金やボランティアの派遣費用とされています。寄付金額は毎月報告しているので、ごみ減量が被災地への支援につながっていることは、市民からも共感を得られています。

■ 民間発：ECOカフェマイカップ

運営

リサイクルプラザ宮の沢で培った市民啓発のノウハウを活かし、もっと多くの市民に伝えたいとの思いから、自主運営で暮らしの見直しにKIZUKU（気づき・築く）拠点「ECOカフェ マイカップ」を開店しました。

ここでは、会員の思いを直ぐに実践し、自由に活動できます。しかし、運営するための資金や人の問題など、厳しい現実がありますが、受託事業等で得た益金を社会に還元する思いで、活動できる範囲で続け、2012年で4年目になりました。



ECOカフェマイカップ店内



札幌市リサイクルプラザ宮の沢

地域のお茶の間・暮らしの見直しへ

店名のマイカップは、マイカップを持参する方に飲み物代50円を値引く、『マイカップ持参運動』のことを指しています。店内は30名が座れるスペースがあり、暮らしを見直す教室やサロンを開催しています。

その他、ファイバーの回収や、容器包装の簡素化、生ごみの堆肥化リサイクル、省エネ(節電)についても教室や相談会を開催するなど、市民の相談窓口となっています。

詳しい事業内容はHPでご覧下さい。

<http://www.refriends.org/>

■ 今後の課題と運営のポイント

公営と民営、二つの拠点を運営し、いつも『市民ニーズ』とは何かを考えさせられます。特に、こちら側の一方的な思いでは、人は集まらなく伝わりません。いかに、興味を持ち、参加意識を高められるかが、永遠の課題ではないかと感じます。

それは、年齢や暮らし方により、必要とする情報、楽しさなどの価値観が違うからだと思えます。

そのため、モニタリング、アンケートなどで市民の意見を聞くことは、運営する上でとても重要です。また、事業計画は、何を目的に、誰に対して、どのように伝えるかまでを考えて、取り組むことが施設運営のポイントではないかと、10年の経験から感じています。